

【アゼルバイジャン経済トピック 129 号】

在アゼルバイジャン日本大使館

2023 年 3 月 14 日

黒海海底送電ケーブルの敷設計画(第 2 報)

黒海海底送電ケーブルについて、2022 年 11 月 1 日付の経済トピックでも紹介しておりますが、同事業に関する現状を改めてお知らせします。

昨年 12 月、ルーマニア・ブカレストにて、フォン・デア・ライエン欧州委員会委員長立ち会いのもと、アリエフ・アゼルバイジャン大統領及びジョージア、ルーマニア、ハンガリー3 か国首相が、「グリーンエネルギーの開発・送電分野での戦略的パートナーシップに関する協定」、すなわち、黒海海底(ジョージア・ルーマニア間 1,100km)に高圧直流送電線(500KV、1,000～1,500MW)及び光ファイバーケーブルを敷設する事業に関する協定に署名しました。

これを受け、本年 2 月には、バクーに 4 か国・EU の担当閣僚(アゼルバイジャンはシャフバゾフ・エネルギー大臣)が参集し、同協定の実施に関する第 1 回運営委員会が開催され、カスピ海から欧州へのグリーンエネルギーの輸送実現に関する作業部会の設置が合意されました。

アリエフ大統領は、アゼルバイジャンにはカスピ海の洋上風力(157GW)、解放地域の太陽光(10GW)など大きな再エネ開発ポテンシャルがあり、これらの欧州への輸出を目指す方針を表明しているところ、黒海海底送電ケーブルは対欧州電力輸出にとり重要な役割を果たすものと見られます。

海底ケーブル敷設事業は 2029 年末迄に完工予定、予算は 23 億ユーロ(約 3,300 億円)と見積もられています。現在、イタリア CESI 社によるフィージビリティ・スタディ中(～本年末)で、電力系統調査を含む技術要件の洗い出し、経済分析が実施される予定です。

(以上)